

「プレスネット」(vol.906)  
平成 30 年 5 月 24 日掲載



在職中、生物がつくる石のことを研究していた私は、定年退職後、東広島市自然研究会に入会して、かねて疑問に思っていた西条が湖であったという説の検証のための調査・研究に励んでまし



## 白市・西条・黒瀬盆地



### 西条層は河川成。湖ではなかった

た。この学びがこのコラムとつながったようです。東広島市の大地、その成り立ちを探ってみましょう。

東広島市地域は、北東—南西方向に並ぶ三つの盆地

から成り立っていて、里山と呼ばれるやや低い丘陵や山地は花こう岩地帯ですが、高い山地区分は流紋岩(火山岩)からできています。

一方、平地部は川が運んだ礫・砂・泥からなる地層(西条層)だけという、極めて単純な地質構成です(図)。しかし、逆断層で、三つの盆地の標高が異なっていることだけ

なく、断層破碎帯を通る地下水が、西条の銘酒を生み出している理由であることも知っておきたいものです。

約70万年前よりも新しい時代に形成された西条層と、流紋岩の年代(約9000万年前)や、花こう岩の形成された年代(約8000万年前)との間には、非常に大きな年代差があります。

西条層の堆積作用が始まる前は、浸食作用だけが働いていたことは確かですが、これまで言われてきたように湖の堆積物が西条層だとすると、浸食作用で礫・砂・泥を運んでいた川がせき止められなくてはなりません。その証拠は全く見つかりません。一方で、曲流・網状の河川によってできた、横方向に同質の地層が続くことが、西条層の特徴です。地域によって地下水の量・質に、当然、違いが生まれることも河川成の証拠です。

広島大学マスタースは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。  
【問い合わせ】  
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)



過去の記事